

西海ブロック水産業情報

NO. 99 (平成29年10月～12月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>・例年9月～10月のシケ後に長門市で建網によるキジハタの大量漁獲が見られる。このため、9月10日から11月4日まで、長門市の建網業者6名のキジハタ漁獲状況を調査した。 現在、その漁獲機構等を解明中。</p> <p>30cm:15尾 30～35cm:478尾 35～40cm:68尾 計561尾</p> <p>※山口県では、H25年10月から30cm未満のキジハタ採捕禁止の委員会指示が出されている。</p>	<p>○有明海 10月21日に採苗開始。台風の接近による風波の影響で作業は難航したが、無事に終了。あかぐされ病は11月16日に初認したが、水温が例年に比べ低めに推移したことで、甚大な被害には至らず。また、同日に壺状菌が初認され、例年に比べ早い感染であったものの、管理強化指導により製品への影響は見られず。 秋芽生産は10月21日から12月23日まで行われ、生産枚数3億4,965万枚(過去5年比105%)、生産金額51億3,372万枚(過去5年比133%)、平均単価14.68円(過去5年比+3.14円)。 冷凍生産は12月27日から開始。冷凍網出庫作業は順調に終了した。</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・北部漁場の生産が低調も、他は成長、生残とも良好に推移。 ・11月中旬～12月中旬にかけ販売開始。好調な売れ行き【栽培関連】 ・「かぐや装置II」によるアサリ稚貝生産、干潟での放流試験を実施中。 ・12月にキジハタ稚魚(TL10cm)約7千尾を投石漁場に標識放流(左腹鰭除去) 【資源管理】 ・底ひき網漁業者がヨシエビ、シャコの体長制限(ともに10cm未満)等の自主規制を実施。</p>	<p>○玄海 ・カサゴ:5月上旬から下旬に約10万尾(全長40～50mm)を配布終了。 ・カサゴ:7月中旬に約3千尾を(全長50～60mm)配布終了。 ・クロアワビ:平成28年度産:殻長16.6～21.8mm約8万個飼育中(9月上旬)。 ・ナマコ:アオナマコは6月中旬から7月中旬に放流用(体長10～20mm)約63万尾を配布終了。 ・ナマコ:アカナマコは7月中旬から8月上旬に放流用(体長10～20mm)約28万尾を配布終了。</p> <p>○有明海 ・ノリ養殖 29年度漁期は10月21日に始まった。秋芽網期は、11月末までは漁場の栄養塩に恵まれ、良質のノリが生産された。12月に入り西～南部漁場の栄養塩濃度が急激に低下した。12月22日の網撤去までの生産枚数は前年の約108%、生産金額は前年の約117%となった。 ・カキ養殖 太良町大浦地区で養殖されているカキの29年度の生産量は、11月上旬に実施した調査から、28年度より少なくなると推定された。また、主力は小サイズ(30～40g)で、身入りも少ない状況であった。出荷は12月11日に解禁された。</p>		<p>・10月:マダイでイリドウイルスによる被害あり。 ・10～12月:トラフグで粘液胞子虫性やせ病による被害発生 粘液胞子虫 エンテロカサム・レイを数年ぶりに確認 ・11月:ブリでノカルジア症、抗酸菌症での被害確認。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・11月下旬から五島庁舎の指導のもとブリ種苗生産実証試験を実施中</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産技術開発関連 10月31～11月2日の3日間で59尾のアカアマダイ活魚を確保し、そのうち27尾の雌親魚(活魚)から11月3～5日において合計約20万粒の卵を採取し、授精翌日に受精卵をオキシダント消毒(0.5ppm、1分間)したのち、約7万粒を県内種苗生産機関に提供した。なお、授精に先立ち、14尾の雄親魚(鮮魚)から生殖腺を摘出し、個別に人工精しよう液に精子を懸濁したのち授精まで冷蔵保管するとともに、網膜、脳のVNN検査(RT-qPCR法)を実施し、このうち9尾がVNN陰性であった。授精時にはVNN陰性及び精子の活性の良好な6尾分を授精に用いた。過去、雄親魚のVNN陽性検出については体重約800g以上の大型魚で多い傾向にあったが、今期14尾の雄親魚(体重560～843g)においてはVNN陽性検出と魚体重に関係性はみられなかった。</p>		